4［土］
プラットワンコインコンサート 二宮綾音&小田かるら
「音初め～フルートとピアノで紡ぐ春風の音彩～」
◉PLATアートスペース

5［日］
豊橋ニューイヤーズコンサート2025◉PLAT主ホール

11［土］
第12回桜丘高等学校ダンス部自主公演
「CIRCLE OF FIRE」◉PLAT主ホール

12［日］
令和7年豊橋市松山校区
「二十歳の集い」◉PLATアートスペース

13［月・祝］
豊橋ケーブルネットワーク［ティーズ］
×NHK名古屋放送局
「ワンワンとあそぼうショー」
◉PLAT主ホール

13［月・祝］
豊橋落語天狗連
第11回新春天狗連名人会？
◉PLATアートスペース

16［木］
Makoto Ozone No Name Horses
～20年目のthe DAY1～
◉PLAT主ホール

19［日］
第23回とよはしまちなかスロータウン映画祭
オープニングイベント
安藤サクラ シネマ&トーク◉PLAT主ホール

25［土］
第23回とよはしまちなかスロータウン映画祭
アフターアワーズ 片桐はいり
◉PLATアートスペース

25［土］・26［日］
第23回とよはしまちなかスロータウン映画祭
スロータウンシネマ◉PLATアートスペース

29［水］・30［木］
豊橋演劇鑑賞会 第306回例会
ピュアーマリー公演『殺しのリハーサル』◉PLAT主ホール

1［土］- 22［土］
第23回とよはしまちなかスロータウン映画祭
◉PLATアートスペース
1［土］ふるさとゲスト シネマ&トーク 菅原浩志監督&宗田律
1［土］・2［日］・15［土］・16［日］・22［土］
スロータウンシネマ
15［土］ピーター・バラカンSpecial
22［土］ふるさとゲスト シネマ&トーク 松井玲奈

7［金］
オンドゥソノール「ルソン・ド・テネブル
（暗闇の朗誦）」◉PLATアートスペース

8［土］・9［日］
豊橋ホスピスを考える会
「生と死を考える会 全国協議会 全国大会 IN 豊橋」
◉PLAT 主ホール、アートスペース

11［火・祝］
二兎社『こんばんは、父さん』◉PLAT 主ホール

11［火・祝］
愛知県主催
令和6年度ひきこもりを考える講演会
「ひきこもりの理解と支援」
◉PLATアートスペース

PLAT NEWS

TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙／風間杜夫、萩原聖人『こんばんは、父さん』
裏表紙／近藤芳正『蒙古が襲来』
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和6年12月発行71号［隔月発行］

PLAT NEWS

プラットニュース

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2025年1月－2月
vol. 71

TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

CONTENTS
目次

1
目次
インタビュー・表紙の顔
2
INTERVIEW:1
二兎社『こんばんは、父さん』
もうすごいことになりますから。
風間杜夫
これは見逃しちゃいけないですね。
萩原聖人
5
INTERVIEW:2
Makoto Ozone No Name Horses
～ 20年目の the DAY1 ～
ジャズは、生きているということをいちばん実感出来る音楽。
小曽根真
7
INTERVIEW:3
『蒙古が襲来 Mongolia is coming』
三十年後にまた集まってやれるのは、一つの奇跡だと思います。
近藤芳正
9
PEPORT
ぷらっと文化祭「Art Platter」Vol.2
参加型ライブペインティング「あんずといっしょに、おおきな絵を描こう」
蟹江杏
10
INFORMATION
PLAT主催公演情報
13
PURA PURA
バラコの寄り道ぷらぷら
地熱
桑原裕子
14
SPONSOR
SUPPORT
TICKET CENTER

INTERVIEW
インタビュー

風間杜夫［かざま・もりお］
東京都出身。つかこうへい作品に多数出演。1982年、映画「蒲田行進曲」（深作欣二監督）で人気を博し、1983年にテレビドラマ「スチュワーデス物語」の教官役で一世を風靡した。以降、舞台・テレビ・映画に加えて、落語にも取り組むなど、幅広いジャンルで活躍、華のある実力派俳優として第一線を走り続ける。その演技力に対し高い評価を受け、紀伊國屋演劇賞個人賞、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞、文化庁芸術祭賞演劇部門大賞、菊田一夫演劇賞大賞、毎日芸術賞などを受賞。紫綬褒章、旭日小綬章も受章した。
萩原聖人［はぎわら・まさと］
神奈川県出身。1993年、「学校」、「教祖誕生」、「月はどっちに出ている」で日本アカデミー賞優秀新人俳優賞と話題賞（俳優部門）を受賞。以降も映画、ドラマ、舞台、ナレーションなど幅広く活躍している。近年の主な出演作に、映画「Fukushima 50」、「島守の塔」、「餓鬼が笑う」、「海の沈黙」、ドラマ「トッカイ～不良債権特別回収部～」、「新聞記者」、「神の子はつぶやく」、「厨房のありす」、「ゴールデンカムイ ―北海道刺青囚人争奪編―」、舞台『魔術』、KERA・MAP#010『しびれ雲』、『「GOOD」- 善き人 -』などがある。

©鈴木陽介

小曽根真［おぞね・まこと］No Name Horses
ジャンルを超え世界規模での活躍を続けるピアニストの小曽根真の呼びかけで、2005年に結成された総勢15名のビッグバンド「No Name Horses」。メンバーはいずれも自身のバンドでリーダーも務め、あらゆる音楽シーンで活躍するジャズ・ミュージシャンばかり。これまでに6枚のアルバムをリリース。長年の信頼関係に基づいた高度なアンサンブル、小曽根を中心とするメンバーの多彩なオリジナル曲、そして尽きない創造性と遊び心で、他に類を見ないビッグバンドに成長。日本のみならず海外でも公演を展開している。

COVER
表紙の顔

二兎社『こんばんは、父さん』
舞台は廃墟となった町工場。金目のものは全て持ち去られ、残っているのは機械の台座や工具棚、朽ちかけたコードなどのガラクタだ。2階に通じる階段にも廃材が山積みになっている。そこへ1人の男が辺りをはばかるように入ってきた。続いて、彼を追ってきたらしい若い男も。いや、他にもまだ、誰かいるようだ。それぞれの立場や役割が入れ替わりながら、世代の異なる3人の男たちのやりとりが続く。夜が深まるにつれ、男たちの抜き差しならない状況が明らかになり……。

近藤芳正［こんどう・よしまさ］
1981年に劇団青年座研究所に入所。舞台、映画、ドラマなど幅広く活躍。映画『ラヂオの時間』、『THE 有頂天ホテル』、ドラマ『真田丸』、舞台『笑の大学』など、三谷幸喜作品に数多く出演。「ラコンチャン」として自身でも舞台作品のプロデュースを手掛け、2022年には一人芝居『ナイフ』を上演した。近年の主な出演に映画『事実無根』『リバー、流れないでよ』、連続テレビ小説『ブギウギ』、YouTubeドラマ『おやじキャンプ飯』シリーズ、舞台『デカローグ 4 』など。

INTERVIEW:1
インタビュー

あんたって、徹底的に逃げるよね。絶対責任取んないよね。すぐ問題ズラすよね。そいで、人から金取ることばっか考えてるよね。

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

矢作――お二人とも永井さんとは初めてとのことですが、印象はいかがでしたか。
萩原――永井さんのお芝居を観たり、自分の舞台を観ていただいた時は、演劇好きの、すてきなものはすてきと言う、正直な方という印象でした。永井さんの描く世界の空気は、自分がやってきていないものなので、ご一緒できることを、すごく楽しみにしておりました。直近で上演された『パートタイマー・秋子』も本当に面白かったです。
風間――このお話をいただいてから、新宿花園神社でやった唐十郎さんの舞台や、僕のひとり芝居も観に来てくださいました。穏やかな、内に演劇に対する情熱を秘めている方なんだろうなと思って、今回は永井さんに身を預けようという気持ちになりました。
矢作――お二人は親子役ですが、以前に共演の経験などはあったのでしょうか。
萩原――僕が16歳の時に、風間さんが30代でハムレットをやった東京グローブ座の舞台『丘の上のハムレットの馬鹿』に、アンサンブルで出させていただいたのが最初でした。まだ16歳で、宝石のようにきらきらしていた僕ですが（笑）、風間さんは宝石以上で、かっこ良過ぎました。その次にご一緒させていただいた時、僕はもうきらきらも失せ、やさぐれていた時期でしたが、商業演劇に挑戦したことがなかったこと、風間さん、平田満さんと共演できることがきっかけで出演を決めました。風間さんとは何か大きな節目にご一緒できているという感覚です。
矢作――30年以上前に出会った2人が、再びこうやって親子の役を演じるに当たって、いかがですか。
萩原――初めて舞台でご一緒させてもらった後からずっと「お父さん、お父さん」と勝手に呼ばせてもらっていたのです。その間に『熱帯楽園倶楽部』という映画で、絡みががっつりあったのですが、今回のこういう親子の関係性の役柄は、今まで不思議と縁がなかったので、もうこれは絶対にやらなければいけない、やるしかない、やりたいと。もちろん恐怖もありますが、自分の個人的な運命というか、感慨深いというか、いろんな思いがオファーをいただいた時はあふれました。
矢作――そのような萩原さんの思いをお聞きになって、風間さんはいかがですか。

二兎社
『こんばんは、父さん』

INTERVIEW

風間――彼と親子という関係の役で舞台ができることは、本当にうれしかったです。僕の舞台が初舞台と言いますが、すぐ売れて、スターになった。そんな中、『熱帯楽園倶楽部』のロケで親しくなり、風邪を引いて熱がある時に現場で、「おまえら、たらたらやってないで、助けろよ」と啖呵を切ったり、お粥も作ってあげたりと、肉親に近いものを感じていたから。この作品で、舞台でお互いの顔を見つめ合ってセリフを言い合うという、願ってもない良い機会になったなと。

萩原――母が演劇好きで、子どもの頃からよく連れていかれたのですが、風間さんが出演された『朝・江戸の酔醒』が、小学6年生か中学1年生だったと思うのですが、強烈に印象に残っています。

風間――戯作者の鶴屋南北の夢の世界で、どんどん作家として育ち、その間に、師匠の女房からの誘惑とか、女郎屋の色気ある場面があったね。

萩原――思春期だったので、そういう場面は記憶に残りやすいのですかね。こんなことを言うのも恥ずかしいですが、尊敬する俳優さんは何人かいますが、演技のまねをしたのは風間さんだけです。こういうのがかっこいいなとか、言い回しとか、今でもまねしています。

矢作――そういう俳優さんと一緒に親子の役をやられるのは、観る側としてはすごく興味を引かれます。

萩原――今回、本読みで、風間さんっぽい言い方をしている気がすると、勝手に思っています。もちろん、まねをしているのではなく、風間さんならこう言うんじゃないかと。

風間――僕は、つかこうへい事務所でやっていたのですが、その時にいた、長谷川康夫が、聖人の演劇チームの作品を、4本も作・演出しています。つか事務所が解散した後に、僕と平田と石丸謙二郎とで、3本やった芝居も彼が演出したので、俺のまねというよりも、長谷川の口立てのセリフのトーンとかのまねだと思います。

萩原――でも、僕は、平田さんのまねも石丸さんのまねも一度もしたことないです（笑）。

矢作――いろんな間接的なつながりで、影響を受けつつ、積み上がってくるという感じなんでしょうか。

風間――そうですね、歌舞伎とか伝統芸能の方は代々継承される演技の系譜というのがあります。僕らがやっている現代演劇は一期一会で、いろんなメンバーと会っては別れる。そこで触発された役者のことを記憶し、なんか盗んでやろう、まねしてやろうというのが、きっと僕らの中にはありますよ。

矢作――親子を演じるに当たって、どういうものをお客さんに見せていきたいと思っていますか。

風間――設定として、廃屋に近い工場、たまたまそこで10年以上別れていた親子が再会します。おやじは息子に、とにかく幸せにと願っていたが、投資詐欺に遭って、しかも離婚しているという情けない現実。こっちはこっちで舞い上がって、バブルか何か知らないが、第2工場まで造って、チャラチャラしていたら、

これは見逃しちゃいけないですね。
出演 萩原聖人

もうすごいことになりますから。
出演 風間杜夫

時代の波に流されて、今やフーテン。結局、何も解決しないが、ちょっといい関係に戻り、お互いを認め合うところにたどり着く。この話の時代背景とか考えると、本当に深刻な問題はいっぱい。そこはさておいて、「あの時代」の「あの時の話」にと、永井さんはこだわっている。これはもう、大人のメルヘンと捉えたいなと思う。

萩原――誰しもいるであろう、何年も会わなかった大事な人に、あの時ああ言っておけばとか、ふと思い出したりする人。それが父親で、工場に呼ばれて再会する。そこから先のことは、どんな言葉が出て、何を返すかは、本には書かれているのですが、何も考えていないです。

矢作――観ている側は、舞台上で起きる反応を素直に受け取って楽しむという作品になるのですか。

萩原――そうですよね。事件も全く起こらないし、アクションもないです。

風間――死んだお母さんとの記憶で、より一層2人がお互いを理解し合い、反省もする。そういう人間関係の基本の、家族とか親子をすごく真剣に見つめた本。壊れたものが修復され、それが人に心地よい感動を与えられたらなと。何か大きな事件があって、うねりのように話があるわけじゃない。

萩原――全くの他人の、人のいい闇金のあんちゃんを通じて、親子関係が何となくあったかくなると、本の上では書かれている。でも、実際はどうなるかは全く分からない。

矢作――コロナでいろんなものが距離を置かざるを得なかったところから、2024年の年明け頃から生で見られる喜びを感じていただける状況に戻ってきているのかなと思います。

萩原――演劇はこの先どうなってしまうのだという環境から、もっと自然に、自由に舞台を楽しめる世の中に、戻ってきてくれたのかなという感じはします。演劇がつまらないからみんなが引いたわけではなかったと思う。

風間――戻りつつありますよね。やはり地元に来てくれて、生で見られるという喜びは、これはもう演劇ならではの魅力。それを見られる喜びは、完全に戻りつつありますよね。

矢作――永井さんの作品であり、みなさんが出演され、これから、稽古が進んで、東京公演でステージを重ね、さらに地方まで行った上で、豊橋のお客様も、どういうものを拝見できるか楽しみにしていると思います。最後に一言ずつ、メッセージをいただけますか。

風間――豊橋は、もう入り切らないぐらい来ますよ。立ち見席用意しておいてください。大変な、素晴らしいものがお見せできる。もうすごいことになりますから。大丈夫ですか。大変ですよこの日は。（笑）

萩原――ちょうど豊橋に行くあたり、この芝居の、熟れたちょうどいい時を。落ちる直前の熟したその瞬間は東京のお客さんは見られない。これは見逃しちゃいけないですね。

矢作――楽しみにしておりますので。ぜひ、お待ちしております。ありがとうございました。

ヘアメイク：廣滝あきら

ジャズは、生きているということを いちばん実感出来る音楽。小曽根真 ピアノ

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

INTERVIEW2

2025年1月16日[木]18:30開演
ピアノ＝小曽根真
トランペット＝エリック・ミヤシロ、奥村晶、松井秀太郎、岡崎好朗
トロンボーン＝中川英二郎、マーシャル・ジルクス、山城純子(Bt)
サックス＝岡崎正典(As)、池田篤(As)、三木俊雄(Ts)、陸悠(Ts)、岩持芳宏(Bs)
ベース＝小川晋平
ドラムス＝高橋信之介
会場＝PLAT主ホール

僕たちがビッグバンドで本当にやりたかったこと

Makoto Ozone No Name Horses

～ 20年目の the Day1 ～

矢作―― No Name Horses結成20周年を迎えて、新しくCDを出してツアーを行うその意気込みをお聞かせください。

小曽根―― 僕らは2004年にビッグバンドを始めて、活動する中でラテン・ジャズをやったり、クラシックやプログレをやったりしていたのですが、20年目にして原点に戻ってきました。今回はストレートなビッグバンド・ジャズを皆さんに楽しんでいただけます。それぞれのプレイヤーたちのアドリブも含めて、20年の蓄積がしっかり感じられるような新しいアルバムが出来たと思っています。そしてここに3人の若い才能が加わって、No Name Horses(NNH)の歴史を振り返っても今までになかったサウンドになってきたと思っています。

矢作―― 新メンバーを迎えたことで変化した点はありますか？

小曽根―― 僕はとにかく、ベテランと言われるバンドにはなりたくないね、って話をメンバーにしていたんですね。もう“燻し銀”とか全然アウト。素晴らしい新メンバーたちの技術と新しい感性に、オリジナルメンバーも非常に刺激を受けていますね。若いメンバーたちは、僕らから音楽の豊かな部分や今まで観たことのない景色をNNHで見せてもらっていると言ってくれています。お互いが刺激を受け合うことで生まれる、とてもクリエイティブで新鮮なエネルギーを皆さんに届けられるんじゃないかなと思います。

矢作―― No Name Horsesというバンド名は、馬をイメージしてネーミングされたのでしょうか。

小曽根―― これ、実はネーミングしたのは僕の相棒の神野三鈴なんです。今から20年前、このバンドの音を聴いたときに、素晴らしいサラブレッドたちが集まったようなバンドというイメージが浮かんだらしいんです。40歳になったばかりのミュージシャンたちは脂が乗ってて元気だし、音も豊かになってきたときで。ただ、サラブレッドというのはその馬のオーナーがいて、名前もつけられているじゃないですか。だから、サラブレッドじゃない、野生馬のように優しくて力があって、自由に駆け巡る強者たちの集まったバンドだと、彼女がそう説明したら、皆がそれは素敵！嬉しいと受け入れて、この名前になったんですね。

矢作―― 本当にイメージ通りで、自由に音を奏でるジャズにすごくぴったりだと思いました。

小曽根―― ビッグバンドというのは基本的に楽譜ありきで出来る大所帯のバンドなんですけど、そうすると自由っていうところから離れていくんですよね。NNHは普通のビッグバンドと違って、楽譜から逸脱していくことを皆が楽しめる、素晴らしいジャズマンたちが集まったバンドなんです。これだけのメンバーが集まると、譜面が自分の中に入っちゃうから、まるでコンボの音楽をやっているように皆がどんどん自由になっていく。僕がわがままに、じゃあこうしようという思いを持ってステージの上で目配せしただけで、皆とコミュニケーションがとれる。今ここで鳴っている音楽こそが真実なので、その音に基づいて楽譜から離れても、次のセクションを創っていくことが出来る。アメリカで活躍しているトロンボーン奏者のマーシャル・ジルクスも言っていたけど、世界中見てもこんなバンドはないと思います。このメンバーだからこそ、ビッグバンド全員で自由奔放に走り回れます。

矢作―― 新しいアルバムはとてもバラエティに富んでいますが、曲を創るにあたって皆さんで相談していたことはありますか？

小曽根―― 今回はストレートなジャズをやるつもりなので、そういう曲を書いて欲しいとリクエストしました。すると三木俊雄はバラードを、エリック・ミヤシロはファーストスイングの曲を、中川英二郎はまた面白い、昔のツイストのような曲を書いてきた。僕は今回、ブルースを大事にしたいって言ったので、三人とも温かい、ブルースならではのグッとくる雰囲気にさせてくれる旋律とバイブスの曲を書いてくれたので、すごく幸せです。さすが、見事にうまくバランスよく書いてくれたなと思っています。

矢作―― 最後に、劇場にお越しいただくお客様にメッセージをいただけますか。

小曽根―― ジャズという音楽は、その瞬間瞬間に生まれてくるので、生きているということをいちばん実感出来る音楽じゃないかなと思っています。15人がひとつの音楽を通して、お互いリスペクトして愛情をもって繋がっていく姿というのは、人間だからこそ作ることのできる幸せを実感してもらえると信じています。とにかく楽しめる、絶対に元気になる音楽だと思います。だから皆さんにもこのエネルギーとパワーを感じていただけるようにメンバー全員で「本気」のジャズをお届けします。PLATは、音響がビッグバンドにはドンピシャで、大きさもすごく良い！これだけのメンバーの管楽器の爆発する音は滅多に生で聴けないと思うので、ぜひその音のパワーを全身で浴びに来てください。

矢作―― 豊橋でのコンサートを楽しみにしております。ありがとうございました。

撮影：鈴木陽介

INTERVIEW

東京サンシャインボーイズ 復活公演

『蒙古が襲来 Mongolia is coming』

時は鎌倉、異国の襲来が目の前に迫っている事を、彼らはまだ知らない。

2025年4月18日[金]18:00開演
4月19日[土]13:00開演／18:00開演
4月20日[日]13:00開演
作・演出＝三谷幸喜
出演＝相島一之、阿南健治、伊藤俊人、小原雅人、梶原善、甲本雅裕、小林隆、近藤芳正、谷川清美、西田薫、西村まさ彦、野仲イサオ、宮地雅子、吉田羊
会場＝PLAT主ホール

三十年後にまた集まってやれるのは、一つの奇跡だと思います。

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

出演 近藤芳正

矢作――ついに30年ぶりに「東京サンシャインボーイズ」が帰ってきます。近藤さんが東京サンシャインボーイズの舞台に出始められた頃のことや、近藤さんにとってどういう劇団、集団なのかをお聞かせください。

近藤――昔、渡辺正行さんが主宰されていた「劇団七曜日」に僕が所属していた頃に演出志望のメンバーと劇団以外の人の脚本でもやってみたいといろいろな作品を観て回っていた中で、その時の東京サンシャインボーイズが、お客さんは全然入っていなかったけれど面白かったんですよ。それで三谷幸喜さんに台本を貸してもらうか書いてもらうことは可能ですかとお伺いしたら、前に書いた本でよかったらといってくださってお借りした台本が面白くて、じゃあやらせてもらおうか、と話していたら演出志望の人の都合が悪くなって、その企画自体はなくなっちゃったんですよ。そこからもずっと見ていたんですけど、『12人の優しい日本人』の初演がシアターサンモール、その後すぐにTHEATER/TOPSで再演されて。以前はいつ行っても客席がガラガラだったのが、その時見ようと劇団の方に連絡したら、「補助席になりますがいいですか？」といわれました。もちろんですと観させてもらったらものすごく面白くて。びっくりしたその勢いで思わず、「舞台に出させてもらうことはできませんか」って言ったら、その当時そんなことを言ってくる人はいなかったようで、面白そうだって話で出られることになりました。

矢作――実際、三谷さんの作品に出られて、感触はどうでしたか。

近藤――まず稽古場の雰囲気が良かった。劇団では、稽古が始まる時には若手の劇団員が準備をしたりして、上下関係がはっきりしていることが多いですが、サンシャインボーイズは年代が近いというのもあり、みんな一緒に準備して一緒に片付けたり。みんな三谷さんの台本が大好きで集まっているんだって思いました。稽古だけに集中して、飲みに行く人は行くけど行かない人は行かない、あとはもうバラバラというスタンスも自分にとっては心地よく、フランクに皆さんと付き合うことができたと思います。

三谷さんから演技のやり方として、笑いだけ・リアリティだけ、みたいに一つだけだと面白くないから、その合間を行くようなことを考えてほしいと言われました。『12人の優しい日本人』の時は三谷さんから、「三つの性格を作ってほしい。一つは相反する性格で、例えば明るいけど暗いとか。もう一つは、大雑把とか、そんな全然関係ないのを入れてほしい。」と。人間は一面性だけではないことを教わったのも三谷さんですね。また、セリフを発言をする時に、その発言をいつしようと思ったかを自分で決めてほしい。三つか四つ前ぐらいのセリフの時には思っていて周りに一瞬の間ができたから言うのか、或いは直前に思いついたから言うのか。それを決めてほしいという。そこもなるほどと。演出としてもすごく頼りにしていました。

矢作――東京サンシャインボーイズが人気を博し、活動を一旦休止し、30年後にやると宣言して30年。この間本当にやると信じて待っていたのですか。

近藤――30年前は考えてなかったです。三谷さんらしい洒落っ気だなと。15年前、もう劇場がなくなるかもしれない時に、「さよならシアタートップス」で、三谷さんのもとにみんなが集まって短いお芝居を作ったのです。その時に久々にみんなとやって、やっぱ楽しいなと。当時のメンバーも結構俳優業を続けているし、もしかしたらあるんじゃないかと思いました。その時に、お互い元気でいようねと。無言でそんなことを感じたのを覚えています。

矢作――稽古が1月からはじまり、東京公演から沖縄公演までの4ヶ月間。また、密にお互い付き合う時間を共有することに対してはいかがですか。

近藤――長い期間となるので、怪我がなく、健康で、喧嘩もなくやれれば最高じゃないですかね。30年前もみんなでわいわいガヤガヤと、「誰々はちょっと、いつも間を空けてしゃべる」とか、「誰々はいつもちょっと早すぎる」とか、なんかそんなことをお互い言いながらやっていた。それをまたできる楽しさはあります。

矢作――復活を宣言した時のタイトルは『リア玉』でしたが、結果としては『蒙古が襲来』というタイトルになりました。どのように思われますか。

近藤――それが特に何もなくて。この時代を調べようとかいうことも一切なく。こういう時代、こういうことがあったとかは（たぶん）小林隆さんが調べてくれると思うので。稽古入ったら小林さんに聞こうかなと（笑）。

矢作――役割分担的なところがあるわけですね。

近藤――アッハ、はっきり決まってるわけではないですが、稽古場でも昔は、梶原善さんや相島一之さんが三谷さんの怒られ役でした。小林さんもそう。それがまたどうなっていくのか。30年も経っても全然変わってないとか、成長してないとか、三谷さんに「いい加減にしろ」と怒られるのか（笑）。僕ももしかしたら、「期待してたらがっかりだよ」とか言われるかもしれない。西村まさ彦さんとやった二人芝居『90ミニッツ』の時も、こんなに本が読めない役者いないよと言われちゃって。それはそれで楽しかったですけどね（苦笑）。

矢作――30年待っていた方、もう一回観たいと期待しておられる皆様に対して、メッセージをいただけますか。

近藤――劇団が30年後にまた集まってやれるのは、一つの奇跡だと思います。三谷さんが洒落で言ったことが本当に30年後に実現する。三谷さんも我々も、この仕事を続けていないと実現できなかった。演劇はお祭りの延長です。その奇跡のお祭りを、その一瞬の、みんなが寄せ集まって出てくる色とか光とか匂いとか、一人一人では出せない、東京サンシャインボーイズならではの色が出てくると思います。その熱を楽しんでいただけば嬉しいです。

矢作――素晴らしい作品をお届けいただけることを期待しつつお待ちしたいと思います。ありがとうございます。

REPORT

ぷらっと文化祭「Art Platter」Vol.2　9月14日[土]-16日[月・祝]

蟹江杏・参加型ライブペインティング「あんずといっしょに、大きな絵を描こう！」

9月15日[日]

イベントレポート

聞き手 飯田幸司　穂の国とよはし芸術劇場PLAT事業制作部

講師 蟹江杏（画家）

飯田――今回とても大きな絵を1日で完成させましたが、子ども達と一緒に描くことを始めたきっかけを教えて下さい。

蟹江――ライブペインティングを始めたきっかけは、ある企業の文化事業部からのお声掛けで、始めはショーとして絵を描きました。その頃は子ども達と描くことに、そんなに思い入れはなかったのですが、その後東日本大震災があり、ボランティアとして子どもと大きな絵を描きに避難所へ行きました。最初はまったくやる気がなかった子ども達が、私が何回も通うことで、徐々に信頼関係ができ、ぽつり、ぽつりと一緒に描くようになりました。絵を描くことが、子どもにとって、私とのコミュニケーションの手段だったんだと今は思います。私はテレビ番組やアニメの話はできないけど、彼らとのコミュニケーションには、お絵かきが楽しいし、意思疎通がしやすいと思っています。それは私にとって大きな気付きだったし、発見でした。

自分ひとりで描くことと違い、子ども達と一緒に描くと思わぬ方向に絵が進んでいく。思ったようにいかず、イライラすることもあるのですが、最終的には予想しないエネルギーがある作品に仕上がっていくという過程が、非常に楽しく、アーティストとしての私のためにもなっています。

飯田――当日参加の子ども達はどんどんあんずワールドに入っていって、全体がチームになっていたという印象がありました。

蟹江――「（こんな大きな絵を）今日、描きあげなければいけない」って私が困っていることを、一人一人に耳元でささやくと、子ども達は使命感を持って一生懸命描いてくれます。また、その中で一番歳が上だなという子には、「木を描いてほしい」と具体的な指示を言うようにしてます。自分で好きな絵を描く時間なのに、その子だけは使命を帯びるわけですが、なぜかそれは他のみんなにもわーっと広がっていくんです。これまでどこでやってもそうで、逆に全体に声をかけるとあまり反応がないのです。

飯田――今回、豊橋の子ども達と製作した感想をお聞かせください。

蟹江――豊橋は本能的でした。石垣島の子ども達と肩を並べるほど、ベスト３に入るぐらい特徴がありました。めちゃくちゃになるということもなく、やらされている感じもない。割と自分の意志でやる子が多く、よく考えて行動する思慮深い子達だなという感じでした。例えば「右を向いて」と言ったら右を向き、隊列がすごくできていてきっちりしているけど、いざ好きにと言うと分からなくなる子が多いという地域もあります。でも、豊橋の子ども達は、描き始めるとすぐに割と自分を出す感じでした。

それに飽きてしまう子がいないのもすごかったです。結構時間ギリギリまでみんな描いていて。「ええっ、もうなの」という感じだったのが印象的でした。

飯田――何でも自由に描いて良く、また他の子が描いたものの上に重ねて描く場合もありました。

蟹江――絵画をたくさんの人で描くと、そういうことになります。例えば演劇も、主人公がいて、脇役も裏方も、役割は違うが、一人欠けると作品は出来上がらないのは、ライブペインティングとも通じます。最初に真っ白な紙に描いた絵が消されるのですが、でも確実に色の重層感となり、それがなければあの感じは出せない。1回目を消されちゃった子も、確実に役割を果たしているんです。一人で描いていても、下地を塗って、それがなくてもよさそうだが、ないと駄目だということと非常に似ています。

飯田――最後に「ぷらっと文化祭」という企画について、お感じになったことはありますか。

蟹江――市民劇という取り組みがこの劇場に根付いていることにびっくりしました。そして桑原裕子さんのようなプロの演出家がそこに関わっているのがすごいなと。たとえば「とまり木の朗読会」は、あの狭い空間でしっかり演出され、クオリティーも高く、私自身も見入ってしまいました。演劇創作に関して地方と都市部の大きな隔たりが、ここでは取っ払われているのがすごいなと思いました。

演劇とか舞台芸術は、その空間がものすごく大事ですが、ああやって小さい空間で、呼吸が、汗が飛んでくるような小劇場のような所で、朗読劇や演劇を観るという経験ができることは、すごく豊かだなと思いました。

飯田――ありがとうございました。

INFORMATION

PLAT主催・共催公演情報

託児サービス対象公演
要予約。生後６ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演

Makoto Ozone No Name Horses ～20年目のthe DAY1～

予定枚数終了

マイセレクト2024 4

2025/1/16［木］18:30開演

小曽根真がリーダーをつとめ、日本を代表するトップミュージシャンが終結したビッグバンド。活動開始から20年の節目を迎えるアニバーサリーイヤーのスペシャルコンサート。
会場＝PLAT主ホール
ピアノ＝小曽根真
トランペット＝エリック・ミヤシロ、奥村晶、松井秀太郎、岡崎好朗
トロンボーン＝中川英二郎、マーシャル・ジルクス、山城純子
サックス＝岡崎正典(As)、池田篤(As)、三木俊雄(Ts)、陸悠(Ts)、岩持芳宏(Bs)
ベース＝小川晋平
ドラムス＝高橋信之介

撮影：鈴木陽介

二兎社『こんばんは、父さん』

好評発売中

マイセレクト2024 4

2025/2/11［火・祝］13:00開演

2012年に初演した作品を12年ぶりにキャストを一新して上演。年齢も境遇も考え方もまるで違う男たちによる「特別な一夜」を描きます。
作・演出＝永井愛
出演＝風間杜夫、萩原聖人、堅山隼太
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席7,000円、A席5,000円 ほか
※18歳以下のお子様無料ご招待対象公演。先着50名、プラットチケットセンター（オンライン・電話）にて取扱い。

ONE COIN CONCERT

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート2024下半期

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円でぜいたくなひとときをお過ごしください。
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・日時指定・整理番号付］500円

「夢にまで見る"わや！"な1日」

12/19［木］14:00開演

Musica Waya
武田涼雅（サクソフォン）、市居宥香（ピアノ）
演奏予定曲目＝R.モリネッリ：ニューヨークからの４枚の絵、A.C.ジョビン：イパネマの娘 ほか

武田涼雅

市居宥香

「音初め～フルートとピアノで紡ぐ春風の音彩～」

2025/1/4［土］14:00開演

二宮綾音&小田かるら
二宮綾音（フルート）、小田かるら（ピアノ）
演奏予定曲目＝リスト：愛の夢、ダマレ：白つぐみ、プロコフィエフ：フルートソナタより第3、4楽章 ほか

二宮綾音

小田かるら

「めくるめくテューバの世界」

2025/3/1［土］14:00開演

デュオ・ネリネ
渡邊望（テューバ）、中條響（ピアノ）
演奏予定曲目＝ラフマニノフ：ヴォカリーズ、クーツィール：テューバコンチェルト作品77 ほか
会員先行・一般＝2025年1月3日（金）

渡邊望

中條響

PICK UP

MONO『デマゴギージャズ』

2025/3/15［土］14:30開演
2025/3/16［日］14:30開演

共催

マイセレクト2024 4

3月15日のみ

ある場所の昔と今、ふたつの時代に暮らす人々をMONOが得意とする会話劇で描く！PLATでは2023年3月『なるべく派手な服を着る』以来の上演です。

―現在、陰謀論などが広がっています。果たして人はなぜ根拠のない物語を信じてしまうのか。その疑問からこの作品はスタートしました。現在と過去の登場人物たちもリンクさせつつ、人々の弱さ、愚かさ、滑稽さを描きます。―
土田英生

【あらすじ】
「この石は木星から来たから触ると覚醒するよ」
あの子は真剣な顔つきで言う。
それは私が拾ってきたただの石。
指摘したらさっきよりマジになって反論してくる。
やがて……他にも信じる人が出てきてしまった。
ああ、デマが奏でられてゆく。デマゴギージャズ♫

会員先行＝12月21日（土）
一般発売＝1月4日（土）
作・演出＝土田英生
出演＝金替康博、水沼健、奥村泰彦、尾方宣久、渡辺啓太、石丸奈菜美、高橋明日香、立川茜、土田英生
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席指定］一般4,000円、U25 2,000円

東京サンシャインボーイズ 復活公演『蒙古が襲来 Mongolia is coming』

2025/4/18［金］18:00開演
4/19［土］13:00開演／18:00開演
4/20［日］13:00開演

時は鎌倉、対馬の漁村。昨日と変わらぬ穏やかな一日。
異国の襲来が目の前に迫っている事を、彼らはまだ知らない。

共催

4月19日
13:00のみ

『30年の充電期間』を経て、三谷幸喜主宰の東京サンシャインボーイズが完全新作公演で再結集いたします。
会員先行＝WEB抽選のみ。
2024年12月17日（火）10:00～26日（木）23:59まで。
申込枚数＝お一人様2枚まで。重複申込不可。
※申込方法詳細はホームページでご確認ください。
一般発売＝1月18日（土）

作・演出＝三谷幸喜
出演＝相島一之、阿南健治、伊藤俊人、小原雅人、梶原善、甲本雅裕、小林隆、近藤芳正、谷川清美、西田薫、西村まさ彦、野仲イサオ、宮地雅子、吉田羊
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席11,000円、A席8,000円 ほか
※一般発売初日は、お一人様2枚までの枚数制限あり。

WORK SHOP ワークショップ・レクチャー

ダンス・レジデンス 大森瑶子『Tuonelan（トゥオネラ）』プレショーイング

12/22［日］17:00開演

ヨコハマダンスコレクション2023コンペティションにおいて「穂の国とよはし芸術劇場PLAT賞」を受賞した大森瑶子が、豊橋市に滞在して新作のクリエイションに挑み、最終日には成果発表としてパフォーマンスを披露します。
出演＝大森瑶子 ほか
会場＝PLAT 創造活動室A
参加費＝無料
定員＝30人（先着順）
申込＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ワークショップファシリテーター養成講座2024［後期］
「豊橋」との出会いから演劇をつくるワークショップ「まちと創る演劇」

2025/1/26［日］14:00開演

豊橋の人や場所を取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、短い演劇を創り上演します。
監修＝柏木陽、すずきこーた、吉野さつき
会場＝PLAT創造活動室A
料金＝無料
定員＝40人（先着順）
申込＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

小・中学校・特別支援学校に出向いてのワークショップ＆ワークショップファシリテーター養成講座報告会2024

2025/2/15［土］14:00-16:00

プラットが実施する教育普及活動の報告を聞き、意見交換会をします。
会場＝PLAT研修室（大）
料金＝無料
対象＝高校生以上
定員＝30人（先着順）
申込＝
①プラットチケットセンター窓口・電話（0532-39-3090）
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ワークショップ縁日

「えんげきとあそぼう」
2025/2/15［土］10:00-13:00
2025/2/16［日］10:00-12:00

1日目はゲームで身体をほぐしつつ、オリジナルの物語を作って、2日目は作った物語をもとに演劇を創作します！こころとからだをつかって思いきり演劇で遊んじゃう2日間。
会場＝PLAT主ホール
対象＝小学生
定員＝15人（先着順）
参加費＝無料
申込方法＝1月6日（月）10:00より
①参加申込書を窓口・FAX（0532-55-8192）にて提出
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

「げきじょうであそぼう」
2025/2/16［日］

劇場のいろいろな場所でおこなわれる、いろんな種類のからだを使ったゲームで遊んじゃおう！
会場＝PLAT
対象＝小学生
参加費＝無料
※詳細は決まり次第、ホームページにて公開いたします。

18歳以下のお子様を無料ご招待［座席数限定・事前申込制］

文化庁による子供文化芸術活動支援事業（劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業）として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。

2025/2/11
二兎社『こんばんは、父さん』

対象＝公演当日に18歳以下小学生以上の方
同伴者申込＝18歳以下の子どもに同伴する保護者等のチケットを対象座席料金の半額でご用意いたします。（先着順・枚数限定）
※公演によって申込方法が異なります。詳細は劇場ホームページにてご確認ください。

TICKET CENTER チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

◉オンライン
https://toyohashi-at.jp［24時間受付・要事前登録］
◉劇場電話・窓口
0532-39-3090［休館日を除く10:00－19:00］

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
◉料金＝U25［25歳以下］：公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下：1,000円
◉購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。
◉その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

◉特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

プラットチケットセンター 手数料変更

この度、プラットチケットセンターのチケット販売システム「ぴあGettii」の各種手数料改定により、2024年11月1日以降のご予約につきまして、チケット料金のお支払および発券にかかる一部手数料を値上げさせていただきます。
■料金改定詳細　（税込）
・セブン・イレブン決済手数料
【改定前】165円／申込 ⇒【改定後】189円／申込
・セブン・イレブン発券手数料
【改定前】110円／枚 ⇒【改定後】127円／枚
・電子チケット（れすQ）発券手数料
【改定前】55円／枚 ⇒【改定後】77円／枚

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
2024年12月29日（日）～2025年1月1日（水・祝）
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは 電話および窓口とも休業いたします。チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。24時間対応いたしております。休館中のチケットのお引き取りについては ご予約の際にご確認ください。

PURAPURA
バラコの寄り道ぷらぷら

撮影：宮本雅通

地熱

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督
桑原裕子

学生時代は演劇部の部長でした。

私の代は、弱小演劇部から全国大会で優秀賞を取るに至るという色々と伝説的な三年間で、私の演劇人生もここから始まりました。卒業するとき、いたずら心で部室の壁に「俺を語りつげ。桑原」と落書きして去ったところ、数年後に訪れた母校で、演劇部の学生たちから「伝説の桑原さんですよね!?」と言われたのは逆に恥ずかしかったですが、私はともかく、当時の演劇部の成り上がりストーリーはそれなりに語りつがれていたようです。しょっぱい思い出も、キラキラした瞬間も、ぎゅっと詰まった三年間。それでもすっかり忘れていた三年間。30年経った今、こんなに熱い手触りで思い出すときが来るなんて。

先日『演劇部のキャリー』という舞台が幕を閉じました。脚本と演出、そして二人芝居のパートナーとなるお相手は入江雅人さん。入江さんはウッチャンナンチャンや出川哲朗さんらと共に劇団 SHA・LA・LAを結成、『ウッチャンナンチャンのやるならやらねば!』をはじめ、数々のドラマや舞台、バラエティにも出演し、現在も俳優として活躍している、まさに私が学生時代にキャーキャーと騒いでいた憧れの人ですが、そんな彼もかつては福岡の高校演劇部出身で、その頃の想いを込めた半自伝的舞台が『演劇部のキャリー』です。さらっと書きましたが、二人芝居なんです。私にとっては初めての二人芝居!

更に特筆すべきは素舞台!素の、何もない舞台、という意味です。入江さんはご自身で『グレート一人芝居』という企画を続けているのですが、あえて舞台に何も置かず、セットはパイプ椅子だけで様々なシチュエーションを演じるのが基本スタイル。

「この舞台には無限の宇宙が広がっている。僕らはそれで勝負する。何もない舞台に、どでかい景色を浮かばせるんだ!」という大見得を切って芝居が始まります。しかも二人とも学生服に身を包んで!そう……コントや回想シーンならまだしも、徹頭徹尾、二時間弱、私はずっと、女子高生役なのです。

『演劇部のキャリー』は、先輩（入江さん）とミッキー（後輩の私）というたった二人だけの演劇部員が、部の存続をかけた地区大会に、スティーブン・キング原作でブライアン・デ・パルマ監督作の映画『キャリー』をモチーフにした演劇を上演するという物語。

年齢、性別、人種、あらゆるジャンルを超えて演じるのが俳優というものです。けれど40代の終わりにして女子高生を演じるというのは、なかなかにあれです。怪物を産んだ母親とか、ブラジル人を演じた時の方がまだ気が楽でした。

もちろん何歳になっても女子高生を演じていいのです。かの名優、杉村春子先生しかり、ちょうど私と時を同じくして、うつみ宮土理さんがキンケロ・シアターにてセーラー服で女子高生を演じているという事実にもずいぶんと励まされたものですが……。

二人芝居、素舞台、女子高生。そして劇中劇の中で演じる超能力者キャリー。

さあ、なかなかの高いハードルに囲まれました。稽古開始の頃は不安でいっぱい。けれど、入江さんの脚本の妙か、稽古の半分くらいをお互いの思い出や趣味の話で語り合った、まるで放課後の部室にいるようなお喋り時間のおかげか、日を重ねるごとに私の中に高校生の自分が戻ってきました。とにかく演じることが面白くて、舞台に立つことが嬉しくて、しつこいくらいに練習をくり返し、出したアイディアが全然上手くいかなかったり、初めて手応えを感じたり、他の学校と比べて落ち込んだり、友だちと励まし合ったりした、あの頃の感触が。芝居ってなんて楽しいんだろうと心が喜ぶ声が。蘇ったというよりも、ずっとありましたよ、ちゃんとここにいましたよという風に、私の体の内側から輝きだしたのでした。この年で女子高生を演じるなんてという気負いは、いつの間にかどうでもよくなって、毎日入江さんと向き合う日々が、本物の青春のように思えてきました。

私より一回り年上の入江さんがこの純然たる高校生マインドをどうして書けるのだろう？と驚嘆するわけですが、恋愛小説家の名手・田辺聖子さんが、何度も恋愛をして来たから書けるのではなく、たった一回の大恋愛があればいいとおっしゃった逸話を思い出します。演劇部時代のばかみたいに燃えた情熱が、年を経ても地熱としてあり続けたから私たちは演劇をやってきたんだと、舞台上にいながら何度も感じました。この幸福な実感は、これからも私に芝居を続ける勇気をくれ、迷った日の道しるべになるのだと思います。

さて、先輩とミッキー、二人の演劇部の行方は？いつか豊橋でも上演できたらなあと思うので結末は書きませんが、この舞台は入江さんが生み出した世界一の名台詞で幕を閉じます。演劇を続けているそこのあなたに、その地の熱さを知るあなたに贈ります。

「ミッキー、、、演劇は、素晴らしいよ」

SPONSOR
広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話52-5256

グロトリアンビアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

ケンチク クロノ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283（代）

創業文政年間
きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会（順不同）
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園

気まぐれコンサート
事務局／0532-62-9259（小川）

安心・安全な地下駐車場
パーク500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円（上限4時間まで）に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115（代）

豊橋名産 ちくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日＝水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ

Carbon Offset for 150g-CO2/copy
Waterless Printing. Naturally.
CO2削減に貢献しています!
カーボンオフセット
この印刷物は、環境省等が運用する「J-クレジット制度」を活用しており、国内のCO2削減事業を支援しています。

SUPPORT
特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ
大和田和惠
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙
株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド
大三紙業株式会社
戸田淳子
トヨタネ株式会社
トヨネン株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社
豊橋信用金庫
豊橋倉庫株式会社
豊橋鉄道株式会社
早川直宏
株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園
株式会社豊川堂
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
若松園
匿名会員２名

（五十音順）

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話＝0532-39-8810［代表］（9:00－20:00）
開館＝9:00－22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅（JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道）、
新豊橋駅（豊橋鉄道渥美線）直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT